

令和7年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第1号（果樹）

令和7年5月16日発表（対象期間：令和7年5月16日～6月上旬）

●PCでアクセス

ひろしま病害虫情報

検索

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報

QRコードはこちら →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

〒739-0151 東広島市八本松町原6869

電話：082-420-9662（直通）

※次回の予報発表は6月上旬ごろです。

1-（1）

かんきつ病害虫の現況と予報（概要）

病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項
かいよう病 （新葉）			●細菌病であり、風雨によって伝染するため、今後の気候には注意しましょう。 ●伝染源となる罹病葉、枝は速やかに除去し、ほ場から持ち出します。 ●5月下旬から6月上旬にかけて、銅剤による防除を行います。ただし、樹勢が著しく低下している場合は散布を控えます。
そうか病 （旧葉）	 		●発病した葉や枝を速やかに除去し、ほ場から持ち出します。 ●発生園では、落花直後の防除を行います。
ミカンハダニ （旧葉）			●梅雨明け後の多発を予防するため、6月中下旬に高度精製マシン油乳剤を散布します。 ●冬季または春季にマシン油乳剤散布を行っていないほ場、前年発生が多かったほ場では発生に注意します。
ナシマルカイガラムシ イセリヤカイガラムシ			●樹幹内部の主枝、側枝にもしっかりと農薬がかかるように散布します。 ●6月中下旬に防除を行います。
ルビーロウムシ ツノロウムシ			●7月上中旬に防除を行います。
アブラムシ類			●開花期防除を徹底します。 ●発生が多い場合は、薬剤抵抗性に留意して、追加防除を行います。

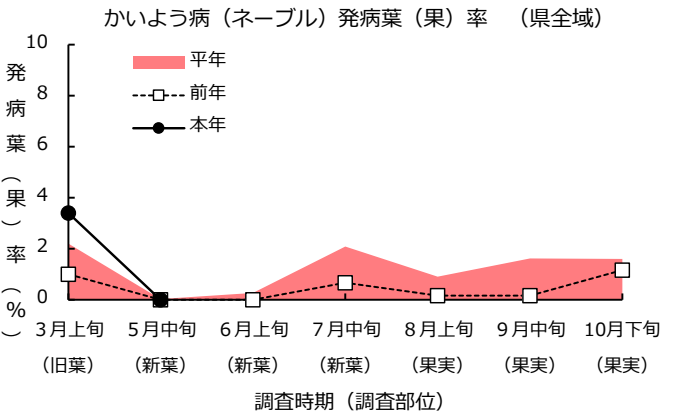
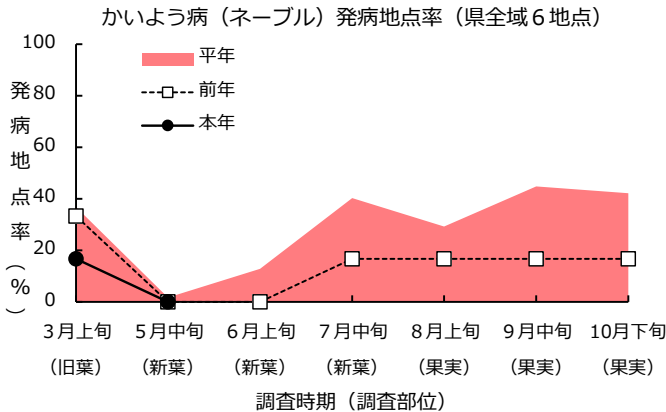
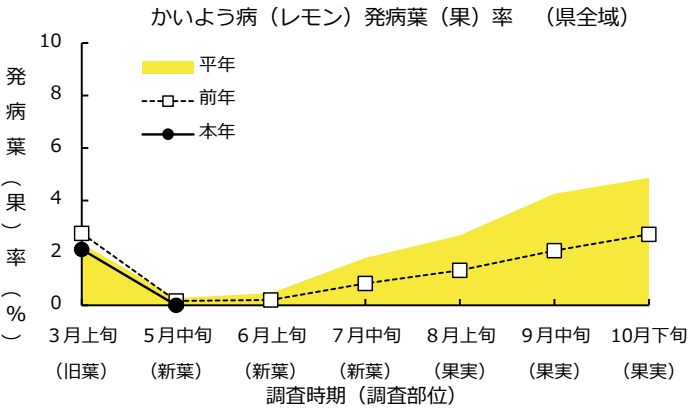
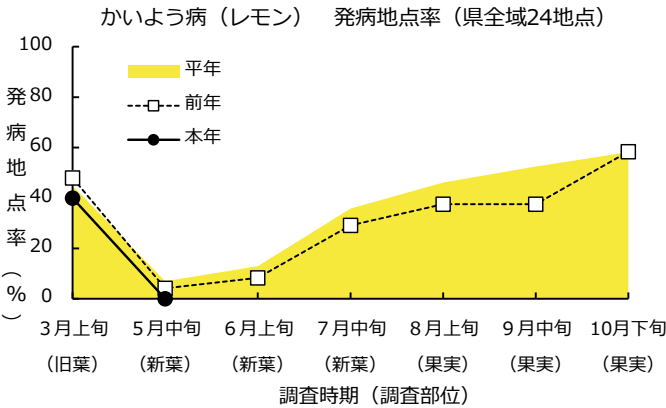
①かいよう病	現況	やや少	予報	並
予報の根拠	●巡回調査では、レモン新葉とネーブル新葉において、発生は確認されませんでした（-）。			
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因	●向こう1か月の気温は平年より高い確率が60%（+）、降水量も平年より多い確率が40%です（+）。			

【防除上の注意事項】

- 細菌病であり、風雨によって伝染するため、今後の気候には注意しましょう。
- 伝染源となる発病した葉や枝は樹上から除去し、ほ場外に持ち出します。
- 5月下旬から6月下旬にかけて銅剤による防除を行いますが、寒波被害等により著しく樹勢が低下している場合は散布を控えます。
- 高度精製マシン油乳剤との散布間隔は14日以上あけます。
- マンネブ剤、マンゼブ剤とは混用せず、これらの剤との散布間隔は7日以上あけます。
- 無機銅剤（コサイド剤など）の散布を行う際は、クレフノン（希釈倍数：200倍）を加用します。



【巡回調査データ】



②ミカンハダニ

現況

並

予報

並

予報の根拠

(+) :多発要因
(±) : 平年並
(-) :少発要因

●巡回調査では、発生地点率は26.1% (平年24.6%)、寄生葉率は3.5% (平年2.9%) で、発生地点率、寄生葉率ともに平年並の発生でした (±)。

●向こう1か月の気温は平年より高い確率が60% (+)、降水量は平年より多い確率が40%です (-)。

【防除上の注意事項】

- 梅雨明け後の多発を予防するため、6月中下旬に高度精製マシン油乳剤を散布します。
- 冬季または春季にマシン油乳剤散布を行っていないほ場、前年発生が多かったほ場では発生に注意します。



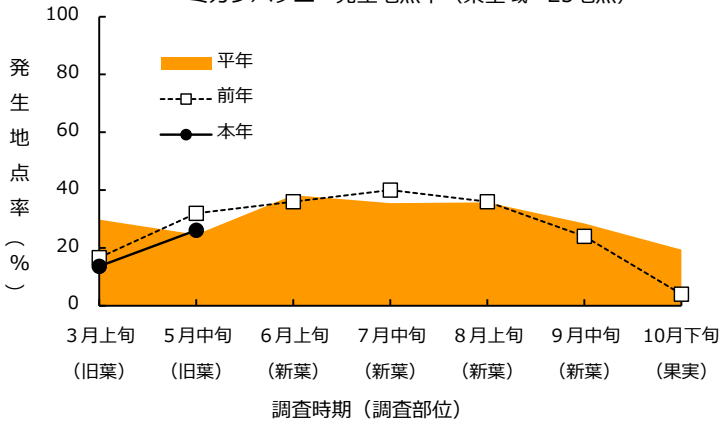
雌成虫
(体長0.5mm程度)



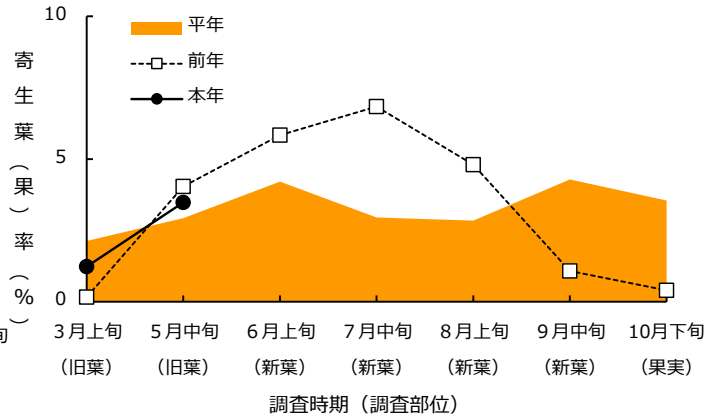
葉のかすり症状

【巡回調査データ】

ミカンハダニ 発生地点率 (県全域 25地点)



ミカンハダニ 寄生葉率 (県全域)



【マシン油乳剤について】

- マシン油乳剤とは？
 - ・機械油と乳化剤を混合したものです。
 - ・気門を封鎖し、害虫を死滅させる (気門封鎖系) 物理的防除であるため、抵抗性が発達したハダニにも有効です。
- 散布時の注意点
 - ・使用前に必ず製品ラベルをよく読み、倍率や使用時期を守りましょう。
 - ・調製した薬液は速やかに散布し、使い切りましょう。
 - ・水和剤やアルカリ性薬剤、銅剤との混用は避けましょう。
 - ・高温時の散布については、薬害を生じる恐れがあるため、散布は朝夕の比較的涼しい時間帯に実施しましょう。

①果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）

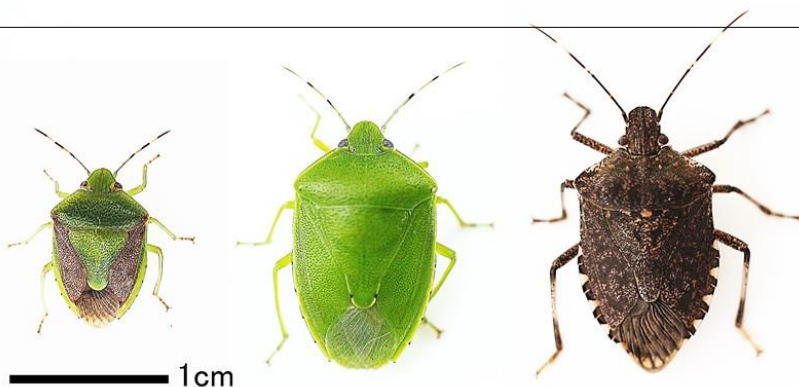
予報

やや少

予報の根拠

(+) : 多発要因
 (±) : 平年並
 (-) : 少発要因

●令和6年12月～令和7年1月に行ったチャバネアオカメムシ越冬量調査の結果、捕獲地点率は11.1%（平年21.2%、図1）、平均虫数は0.17頭/地点（平年0.3頭、図2）で、過去10年と比較してやや少ない越冬量でした（-）。
 ※フェロモントラップ調査データを、ひろしま病害虫情報に公開しているので、防除対策の参考にしてください。



左からチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ

【越冬量調査結果 図1、図2】

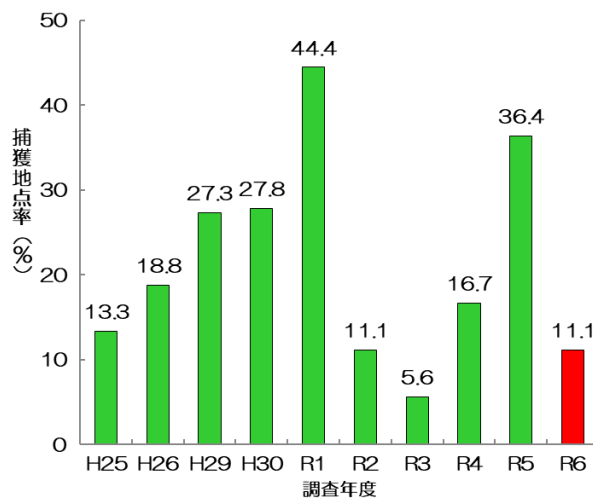


図1 チャバネアオカメムシの捕獲地点率

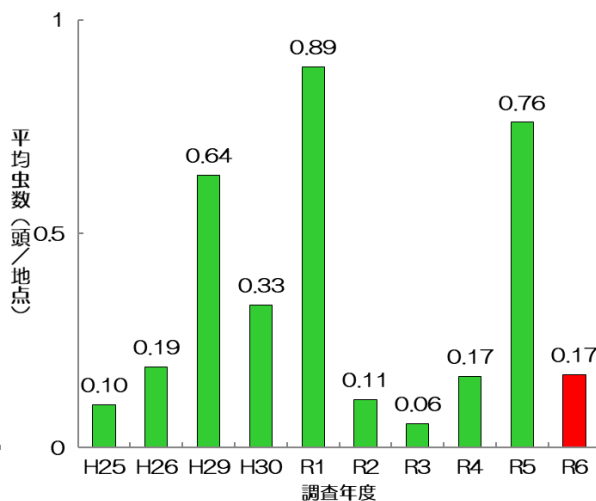


図2 チャバネアオカメムシの平均虫数

※H27、H28は調査地点数が少ないためデータから除外した。

②チャノキイロアザミウマ成虫発生予測



果梗部のリング状被害

チャノキイロアザミウマ
(体長0.8mm程度)

●チャノキイロアザミウマは、主に防風樹として利用されているイヌマキやサングジュなどが発生源となり、果樹園に飛来します。この虫に果皮を加害されると外観が著しく悪くなります。

●チャノキイロアザミウマは、気温の推移から成虫の発生が多くなる時期（発生ピーク）を予測することが可能です。防除適期は、発生ピークの7日前からピーク当日です。

※ 表1を参考に、発生ピーク予測日に合わせた防除を行ってください。

表1 チャノキイロアザミウマ成虫発生ピーク予測日

今後の気温	発生ピーク予測日	
	第1世代	第2世代
平年より高い (+1℃)	5月24日	6月19日
平年並	5月25日	6月22日
平年より低い (-1℃)	5月27日	6月25日

※生口島アメダスデータに基づく

中国地方 1 か月予報

(広島地方気象台 5月15日発表、5月17日から6月16日までの天候見通し)

- 期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- 向こう1か月の平均気温は高い確率が70%、降水量は平年並または多い確率ともに40%です(図3)。
- 週別の気温は、高い確率が1週目は70%、2週目は40%、3～4週目は50%です(図4)。

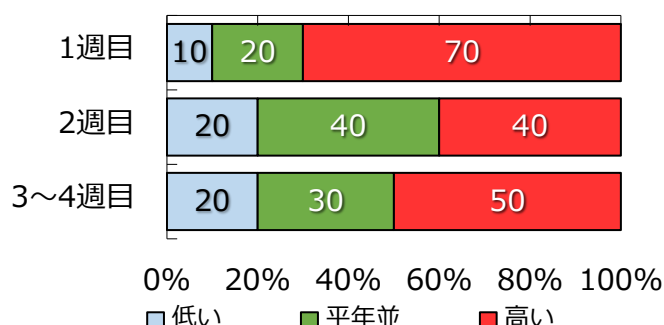
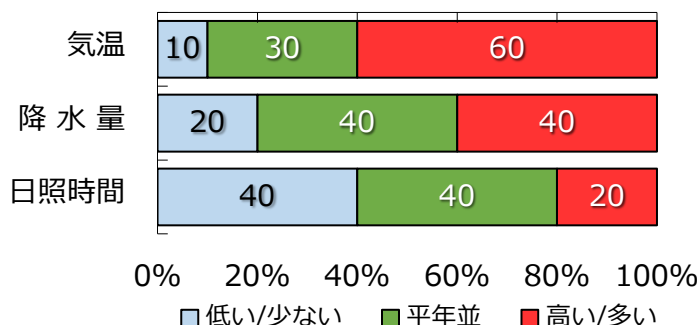


図3 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率 (%)

図4 向こう1か月の気温経過の各階級の確率 (%)

- 広島県では、農薬による危害の未然防止を図るため、6月1日から8月31日までの3ヶ月間を農薬危害防止の重点期間と定め、農薬販売者及び農薬使用者に対する関係法令等の周知や農薬の適正販売、適正使用及び保管管理のさらなる周知・徹底を図ることとしています。
- 令和7年度の農薬危害防止講習会の開催場所および日程が決定しました。
- いずれの会場も、13:20～16:00に開催いたします。
- 農薬危害防止運動の期間中、オンデマンド方式により講習会内容を配信します(事前申込必要)。詳細は[県ホームページ](#)をご覧ください。

年 月 日	時 間	場 所
令和7年6月3日(火)	13:20～16:00 (受付12:50～) ※希望者に対し、	三次市十日市南1-2-18 十日市きんさいセンター 1Fホール
令和7年6月17日(火)	講習会終了後、広島県植物防疫協会による広島県農薬	福山市東深津町3-2-13 備後地域地場産業振興センター 4F大会議室
令和7年7月1日(火)	適正使用アドバイザーの認定試験が行われます。	広島市中区基町10-52 広島県庁本館6階講堂

【カンキツの地帯区分について】



西部：竹原市以西の沿岸島しょ部

東部：三原市以东の沿岸島しょ部

【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

- 「多」： 1番目(最多年)と同程度以上
- 「やや多」： 2～3番目と同程度
- 「並」： 4～7番目と同程度
- 「やや少」： 8～9番目と同程度
- 「少」： 10番目(最少年)と同程度以下